車いすユーザーの住みやすいまちづくり

3年4組25番　西田　未侑

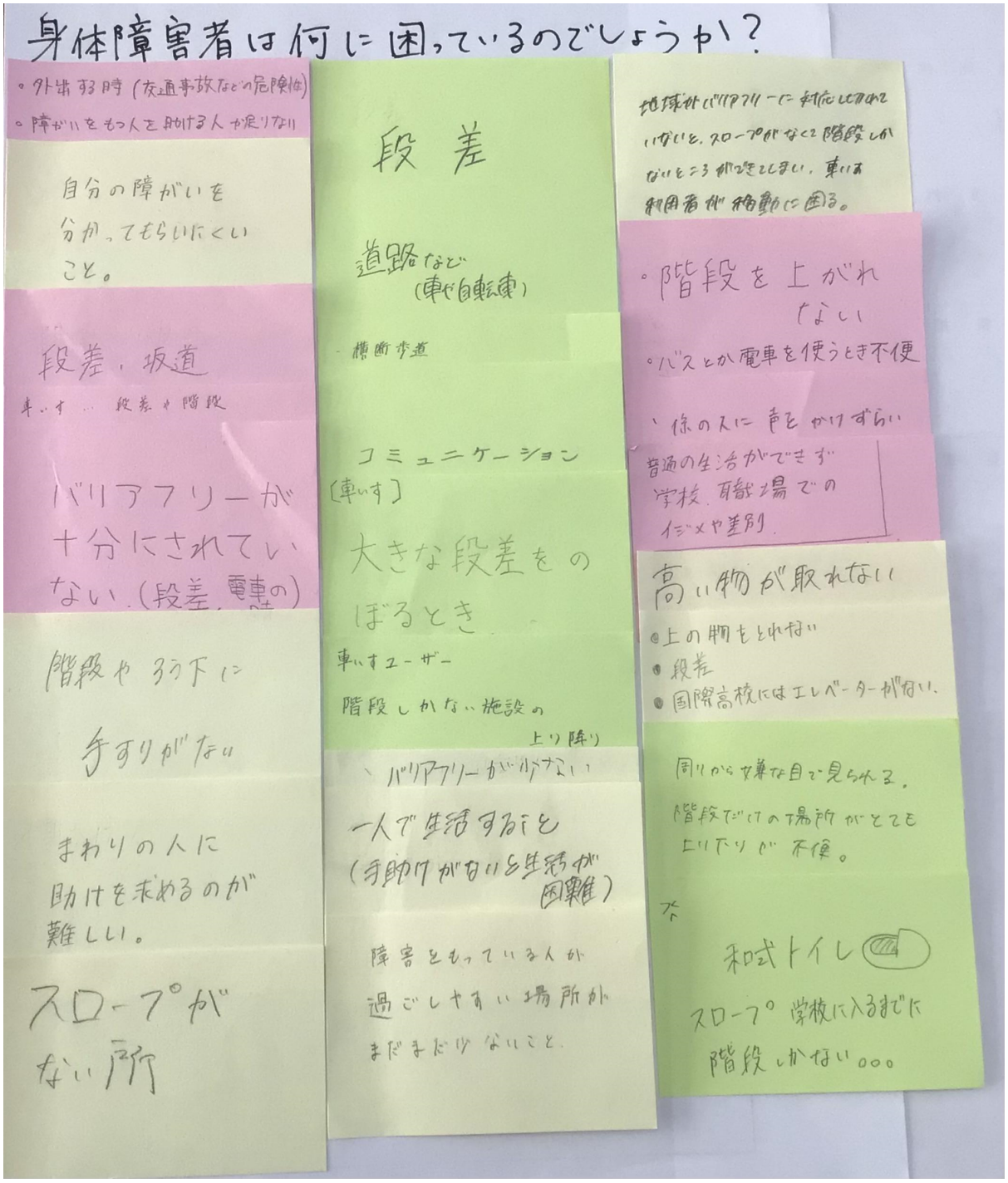
１．はじめに
数年前から祖父が車いすに乗っていて、普段生活する中や一緒にお出かけに行く中で車いすだと行ける場所も限られるし行けたとしても段差があったりなど、困ることが多いと感じた。そのため車いすに乗っている人が何に困っているのか、介護する側が何に困っているのか、を探究して課題を見つけて車いすユーザーにとっての住みやすいまちづくりとは何かを考えようと思った。

２．序論
車いすに乗っている方は何に困っているのかを調査し、『みんなが住みやすいまち』にするためにはどのようにすれば良いのか探究する。

３．本論
日本には436万人を越える身体障害者がいる。それは増加傾向にある。なぜなら、高齢化社会が進んでいるからだ。私は身体障害者の中でも車いすユーザーについて探求した。現在日本で車いすを使っている人は約200万人いる。
日常的に車いすを使う人は下半身麻痺や老化で足が不自由な人、そして生まれつきや事故などで片足や両足を失った人や半身不随で足が動かない人が日常的に車いすを使う。そして時々や一時的に使う人については普段は杖や歩行器を使えば歩くことはできるが疲れたりして歩けなくなった場合に使ったり、歩けるが下半身に障害がある人がスポーツをする時などに使われる。
そこで、高校生は身体障害者についてどのように感じているのかを知るためにアンケートを行った。対象者は奈良県立国際高等学校1．2．3年生から無作為に選んだ約30人とした。

〇アンケート結果(身体が不自由な人は何に困っているのか)

以下にアンケート調査用紙を添付する

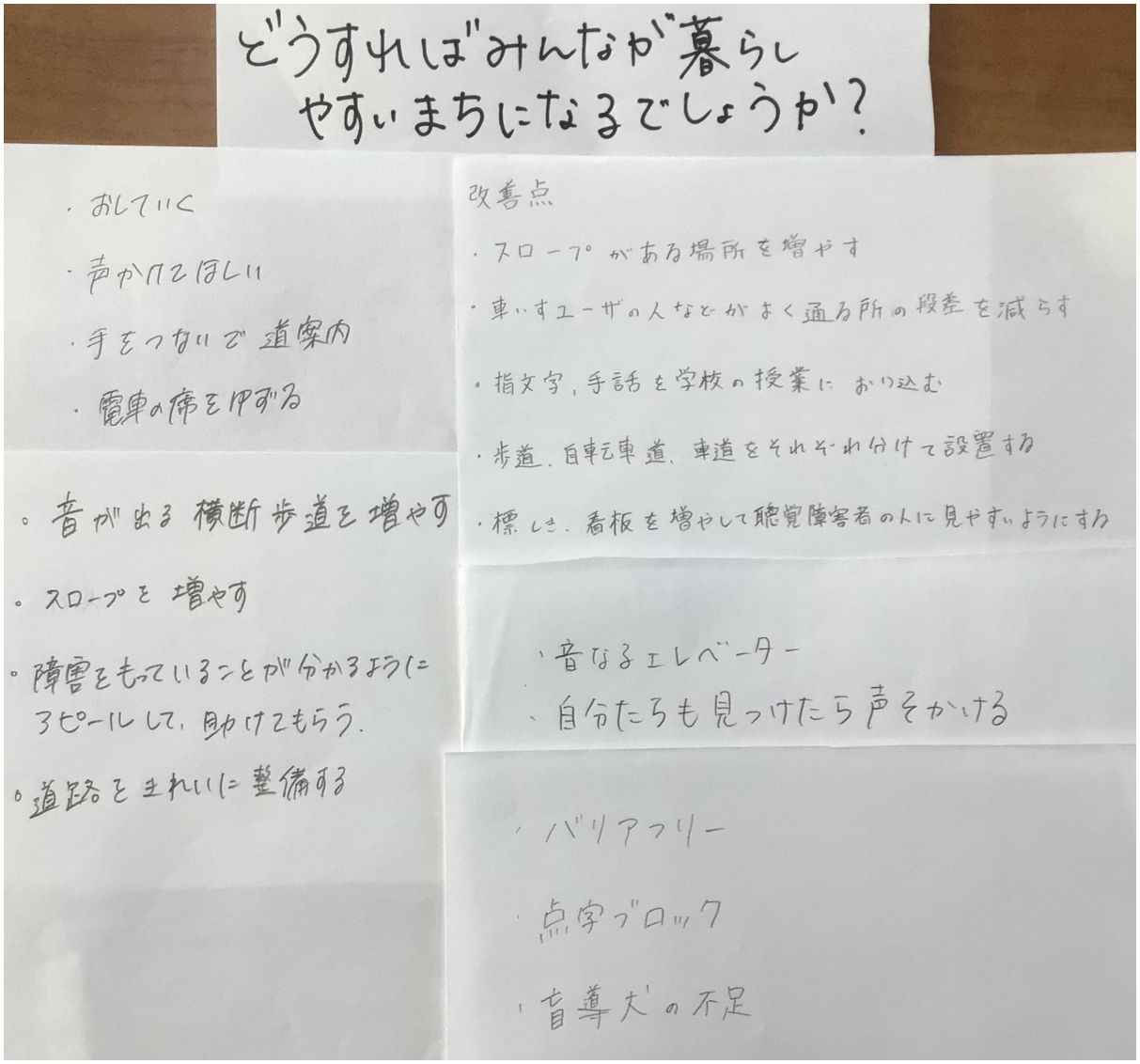


→

・スロープがないところ
・階段や廊下に手すりがない
・自分の障害を分かってもらいにくい
・階段しかない古い建物
・大きな段差
・高い物が取れない
・人とのコミュニケーション
・周りの人のサポートが受けれない時

・係の人に声をかけずらい
・公共交通機関を使う時
・一人で生活をする
・身体障害者の過ごしやすい場所がないこと

〇アンケート結果(どうすればみんなが暮らしやすいまちになるのか)
以下にアンケート調査用紙を添付する



・障害を持っていることが分かるようにアピールして助けてもらう
・道路をきれいに整備する
・車いすユーザーがよく通る場所の段差を無くす
・スロープの場所を増やす
・困っている人を見つけたら声をかける
・電車の席を譲る
・広がって歩かない
・車いすユーザーや身体障害者に対する偏見を無くす

アンケートの結果、段差や階段があると転倒してしまったり、登れなかったりするなど高校生達は身体障害者についてよく考えていることが分かった。そして、どうすればみんなが暮らしやすくなるのかという視点についても考えていることが分かった。

４．結論

本探究では、車いすユーザーの住みやすいまちづくりについて探究した。その為、どうすればみんなが住みやすいまちになるのか、身体障害者の方たちは何に困っているのかアンケート調査を行った。その結果、高校生が考える身体障害者の方にとっても住みやすいまちとは、「困っている人には声を掛け合い、偏見を無くす」、「道路の整備をする」などがあげられた。道路の整備をするには、お金も時間もかかるが、声掛けは高校生の私たちにもできることである。一人一人が困っている人に声を掛けるということを意識することで、「みんなが住みやすいまちづくり」の実現に近づくことができるのではないかと考える。この探究では、アンケート調査しか行えなかったので、実際に困っている人がいたら声を掛けるなど実践を含めた調査を行うことが課題である。

５．おわりに

今回の探求では、車いすにだけ絞って探究してきたが、これからはもっと広く色んな身体障害者について探求していきたい。そして、祖父のように車いすに乗ると動けるようになるのに生きずらくなってしまう世の中を無くして、誰もが住みやすい幸せなまちにするためにこれからも探求を続ける。

６．参考文献・出典

厚生労働省https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/shougaishahukushi/index.html